



2015年（平成27年） 8月17日 月曜日

日刊 産

はやぶさの帰還



隕石や隕鉄、宇宙から飛んで来た物のことを書き続けてきましたが、最後に小惑星イトカワへの

鉄のふしぎ? 博物館

35

『はやぶさ』

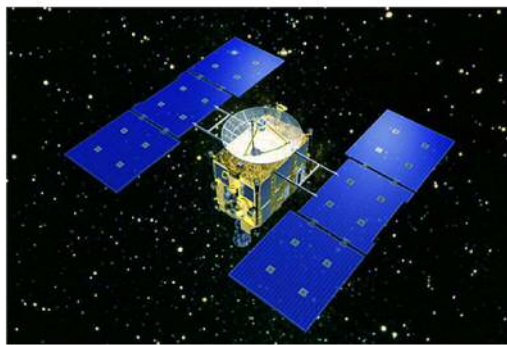
長距離旅行といってもピンと来ない60億キロ、7年間の旅をした『はやぶさ』の物語を書いて、隕石シリーズを終えたいと思います。

『はやぶさ』は2010年6月13日、安全に帰還することが出来ず、サンプルを入れたカプセルを地球に向けて発射した後、大気圏に再突入し燃え尽きました。大切なサンプルはオーストラリアのウーメラ砂漠で無事回収されました。地球の重力圏外にある天体に着陸してのサンプルを採集し、帰ってきた世界で初めて小惑星探査機です。

イオンエンジンによる新しい航行方法を確立しながら、太陽系の起源の解明に繋がる手がかりを得ることを目的に、小惑星イトカワのサンプルを持

ち帰ったので『はやぶさ』は2003年5月9日に鹿児島県の内之浦から打ち上げられ、510キロの小さな身体でボロボロになりながら、途中行方不明にもなりスタッフのみなみならぬ努力の末、復活して帰還しました。参考図書のとがきには以下のように記されています。

——7年間の宇宙大航海を通じて、人と機械との心の交流とでもいえるような、新たな関係をもたらした。それは、機械文明が始まってから経験したことのないことだっ



はやぶさの画像

たとえ『はやぶさ』は、数えきれない困難を必死に耐え、克服し、あらぬ力をふりしぼって宇宙の大航海を続ける人格をもったヒーローとして、多くの人たちに勇気と自信、生きる力を与えてくれました。インターネッ

作の映像がアップされ、それが『はやぶさ』への理解と応援を拡大させ、『はやぶさ』チームにとっても大きな支えとなっていました。日本の宇宙開発史上、いや、日本の科学技術史上、初めて経験する、技術立国日本、科学立国日本への大きな自信をもたらす出来事だった。（以下略）

後継機『はやぶさ2』は少し大きい約600キロで、14年12月3日に打ち上げられました。太陽系の起源や進化を知るために『はやぶさ2』が目指すC型小惑星はS型小惑星のイトカワと比べると、より原始的な天体で同じ岩石質の小惑星でありながら有機物や含水鉱物をより多く含んでいると考えられています。『はやぶさ2』がサンプルを持ち帰る使命を達成し、その分析研究により地球をつくる鉱物、海の水、

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。

日刊産業新聞 15・8・17

生命の原材料物質が解明される事を期待しています。

7月17日台風襲来、客少なく18、19日は人であふれかえりました。『鉄のふしぎ博物館』7周年は家族連れ、専門家などで賑やかでした。夏休みに入ったらばかりの小学生達が大騒ぎをしながら『バックンワニ』作りをした。砂、砂鉄が一杯入っているよ。弓ヶ浜（鳥取県）の砂から強力磁石で砂鉄を任分け、楽しんでいました。

【参考図書】

▽小惑星探査機はやぶさの大冒険（山根一眞著、マガジンハウス、2010年）
▽インターネット JAXA (<http://www.jaxa.jp/projects/sat/muses-c/index-j.html>)